

国立情報学研究所の即時OAへの取組み： 多様性という観点から

図書館総合展2024 JST/CHORUSフォーラム：
オープンアクセス化への多様な経路
2024/11/20（水） 11:15-11:30

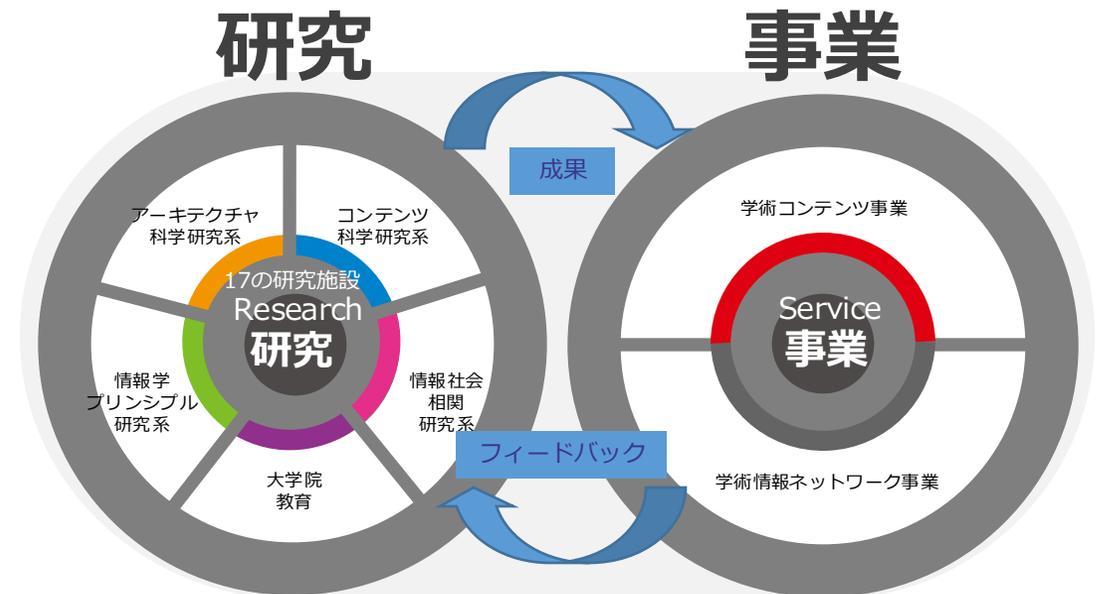
国立情報学研究所 学術コンテンツ課 副課長 林豊

自己紹介

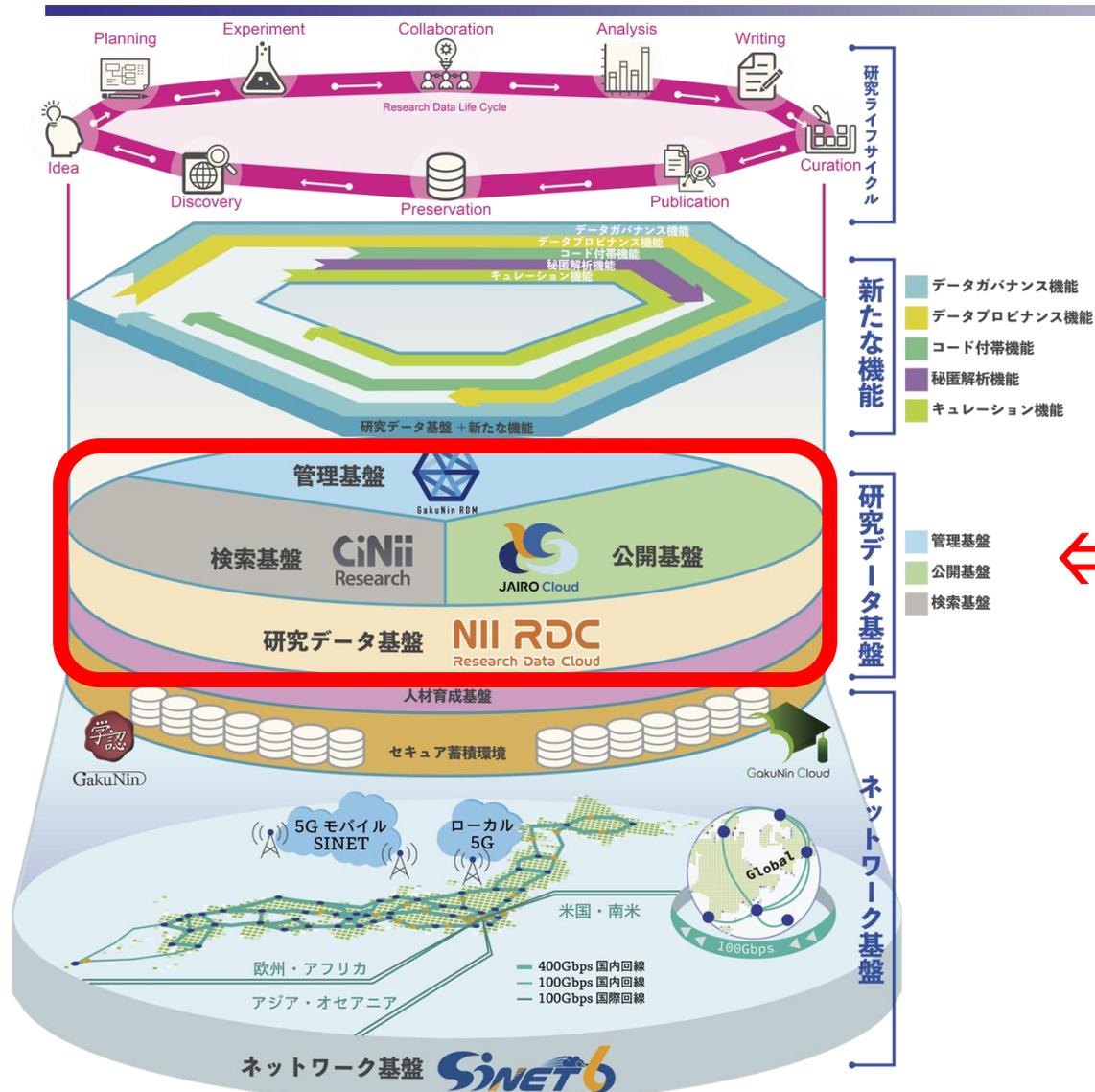
- 大学図書館員（18年目）
- 2007- 京都大学（目録、ILL）
- 2011- 国立国会図書館（カレントアウェアネス・ポータル）
- 2013- 京都大学（閲覧）
- 2014- 九州大学（図書館システム、機関リポジトリ、デジタルアーカイブ）
 - 博士論文オープンアクセス義務化への対応
 - 九州大学オープンアクセス方針の策定、運用
 - JPCOARスキーマの導入
 - 研究データポリシーの検討（の端緒）
- 2019- 国立情報学研究所（NII Research Data Cloud等）

国立情報学研究所（NII）の紹介

- 情報学という分野の国内唯一の学術総合研究所
- 大学共同利用機関法人として、学術コミュニティの声を反映しながら、学術情報流通基盤（特定の分野に依らない）を
開発・運用



NII事業の全体像（学術研究プラットフォーム；2022年度～）



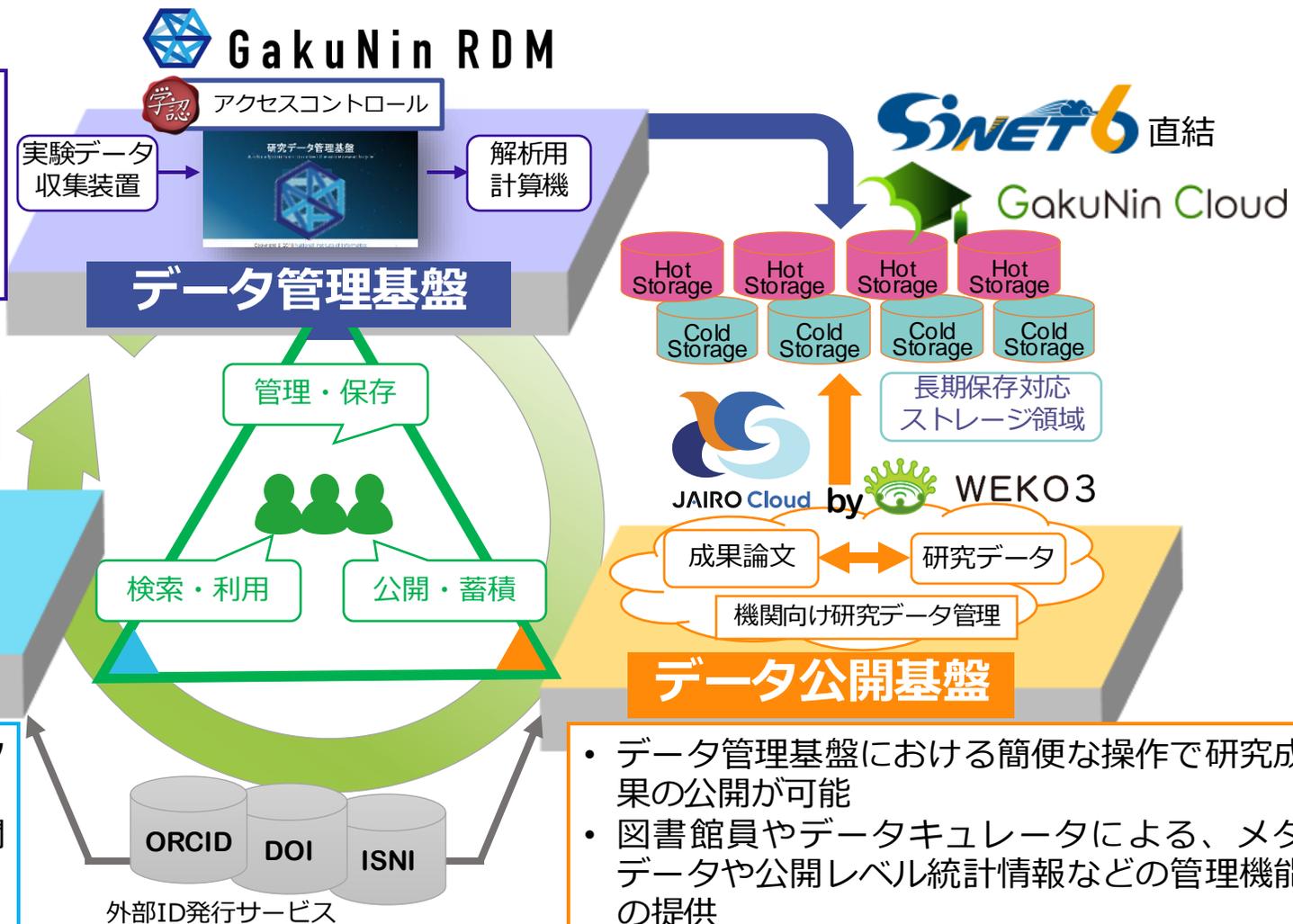
第6期科学技術・イノベーション基本計画 (2021-2025年度)

“研究データの管理・利活用のための我が国の中核的なプラットフォームとして2020年度に本格運用を開始した研究データ基盤システム (NII Research Data Cloud) ~”

研究データ基盤 : NII Research Data Cloud

2017年から開発開始 ⇒ 2021年から運用開始

- データ収集装置や解析用計算機とも連携
- 研究遂行中の研究データなどを共同研究者間やラボ内で共有・管理
- 組織が提供するストレージに接続した利用が可能



- 機関リポジトリ+分野別リポジトリやデータリポジトリとも連携
- 研究者や機関、研究プロジェクトの情報と関連付けた知識ベースを形成
- 研究者による発見プロセスをサポート

- データ管理基盤における簡便な操作で研究成果の公開が可能
- 図書館員やデータキュレータによる、メタデータや公開レベル統計情報などの管理機能の提供

NIIへの政策的要求

- 統合イノベーション戦略2024（2024/6）
 - ① 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方（2021/4）
⇒ 研究データ（公開・共有・非公開）のメタデータをNII RDCで検索可能に
 - ② 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（2024/2）
⇒ 査読付き論文＋根拠データを「機関リポジトリ等の情報基盤」で即時公開
- どちらの政策においても多様な方法／ルートが許容される（必ずしもGakuNin RDMやJAIRO Cloudを使う必要はない）が、最終的にCiNii Researchへの集約を求められている

NIIの即時OAへの取組①：グリーンOA対応の強化

- 課題：物量、即時性、著者最終稿入手
- 対応
 - OAアシスト機能（先行利用中）
 - GakuNin RDM→JAIRO Cloud連携機能（11/7-29先行利用公募中）



**GRDM-JC
連携機能**



研究データに
メタデータを
付与して送出



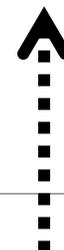
OAアシスト機能

WEKOに送信 ダウンロード

検索

« 1 2 3 4 5 ... 122 123 »

☆↓	論文情報	非OA	助成	筆頭著者	データ取得日	ポリシー	ステータス/メモ
	ID:190-425-270-688-620 Complement factor D targeting protects endotheliopathy in organoid and monkey models of COVID-19.						
★	Eri, Kawakami / Norikazu, Saiki / Yosuke, Yoneyama / Chiharu, Moriya / Mari, Maezawa, and 30 authors Cell stem cell, Vol.30, No.10, DOI:10.1016/j.stem.2023.09.001	✓	✓	-	2023/11/09	www.elsevier.com	論文入手済 明日予定。



- 登録対象の特定・抽出
- 著作権ポリシー確認
- 著者への本文提供依頼
- JAIRO Cloud流用入力機能

NIIの即時OAへの取組② : CiNii Researchへの網羅的な収集

- 課題 : 多様化への対応、データベースの品質維持
- 対応
 - CiNiiの収録ポリシーの策定 (契機 : Jxiv対応)
 - 連携先データベースの拡充

CiNiiミッションステートメント

CiNiiは、日本の学術コミュニティにおける学術資源の利活用を推進するための情報基盤です。

- 多様な学術資源に関する情報を集約・構造化し、知識検索サービスとして提供します。
- 学生・研究者・学術機関関係者など、広く学術活動に関わる人々を対象とします
- 透明性の高い情報管理を通じて、学術資源に対する信頼の確保に努めます。

NIIの即時OAへの取組③：グランドデザインの調整

- 課題：多様化への対応、実現可能なシステム連携
- 対応：内閣府中心にステークホルダーとの調整
 - 政策サイド（内閣府、文部科学省）
 - 助成機関（JSPS、JST、AMED等）
 - プラットフォーマー（JST、内閣府（as e-Rad運用者）、NDL等）

所感：ディスカッションに向けて

1) 多様性

- なぜ多様性が必要なのか？
 - 研究という営みの多様性の大切さ
 - 一極集中／寡占（モノポリー）への反省 = リポジトリという世界観の本質
 - 増大する一方の学術情報の品質管理コストを広く分担しあう（例：predatory journals）
- 多様性への対応には当然コストがかかり、すべてを飲み込むのは難しい
 - 国としてのグランドデザインの設計（ステークホルダー間のデマケ、ユーザ側との責任分界点）
 - 標準化、ガイドライン、識別子（PID）
 - 品質による線引き（例：researchmap、プレプリント）

2) グリーンOA

- グリーンOAの苦しさ（著作権譲渡契約→エンバーゴ、著者最終稿）は20年以上変わっていない
 - 権利保持戦略は機能するのか？（例：Harvard、Plan S）
 - 強力なFunderポリシーができればうまく回るのか？（例：NIH、Gates、REF）
 - 出版社による“著者最終稿”の公開（例：CHORUS） ←我々のコントロール外
 - ゼロエンバーゴグリーンOA付きのジャーナル契約（例：ACS-Couperin）
- とはいえ、他に何ができる？
 - 出版社へのささやかな反抗（例：投稿ボイコット、査読ボイコット）
 - オルタナティブな出版プラットフォーム（例：COAR Notify、ダイヤモンドOA） + 研究評価のリフォーム（例：DORA）
 - プラットフォーム規制・競争法の適用可能性（c.f., 鈴木康平先生@SPARC Japanセミナー2023）

参考情報

- オープンアクセス加速化事業におけるNIIの開発内容を説明する会
(2024/11/1、資料・動画あり)
 - <https://rcos.nii.ac.jp/OpenAccessNii20241101/>
- NIIサービス説明会 (10/29東京、11/28札幌、12/19福岡)
 - <https://www.nii.ac.jp/openforum/2024/setsumeikai2024.html>
- 図書館総合展2024 NIIフォーラム (「CiNii Research: 統合と展開」
「JAIRO Cloudでオープンアクセスを実践しよう!」、資料公開準備中)
 - <https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2024/>
- JAIRO Cloud連携機能 (先行利用) 公募について (11/29ㄨ)
 - <https://support.rdm.nii.ac.jp/about/repository/>
- オープンアクセス加速化事業関連情報
 - <https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/pages/viewpage.action?pageId=148050511>